

2012年度の産学連携プログラムの実施状況

Industry-University Consortium on Logistics

流通経済大学流通情報学部では、2010年度からロジスティクス産学連携プログラムを正式に立ち上げ、今年度が3年目です。プログラムの講師は、ロジスティクス関連の業界団体、物流業、運輸業、メーカー、卸売業、小売業、コンサルタントなど、企業を中心とした幅広い人材で構成されております。

ロジスティクス産学連携プログラムとして、「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「ロジスティクス企業訪問講座」、「ロジスティクス改善演習」の6科目、さらに関連する寄付講座として、「日本通運寄付講座」、「全国通運連盟寄付講座」の2科目があります。2012年度の実施状況の概要をご報告させていただきます。

①「ロジスティクス実践講座」の2012年度の実施状況

「ロジスティクス実践講座」は、荷主企業等を中心にロジスティクス実務者を招き、各企業のロジスティクス・システムの現状を学び、ロジスティクスの考え方を現場から考えていくことを目標としています。また、環境問題あるいは安全・安心といった新たな問題についても学びます。通年科目であり、龍ヶ崎、新松戸の両キャンパスに講師に来ていただくかたちで開講しました。各回のテーマ、講師は表1、表2のとおりです。新松戸の受講生数は59人、うち4回生は7人、3回生は27人、2回生は25人でした。留学生が18人でした。龍ヶ崎の受講生数は42人、うち4回生は6人、3回生は6人、2回生は30人でした。留学生は28人でした。

表1 「ロジスティクス実践講座—龍ヶ崎」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	ロジスティクス実践講座ガイダンス	流通経済大学 矢野裕児
2	物流概説 ・物流概念の誕生とロジスティクスへ ・ロジスティクスの高度化をうながした要因 ・ロジスティクスの定義	日本ロジスティクスシステム協会 石井徹郎氏
3	企業のロジスティクス戦略の変遷—1 ・物流前期 ・物流(物的流通) ・物流システム化の時代	日通総合研究所 廣瀬吉英氏
4	企業のロジスティクス戦略の変遷—2 ・ロジスティクス ・SCM ・グリーン物流(環境保護・改善)	日通総合研究所 廣瀬吉英氏
5	物流改善のポイントは—1 ・「アウトソーシング」「外注」「下請け」どう違う? ・「物流/ロジスティクスとは何か」を再考しよう!	紙中コンサルティング 紙中英伸氏
6	物流改善のポイントは—2 ・ITを活用すれば、物流が見えてくる、コスト低減方策が明確にわかる! ・在庫削減はロジスティクスの視点が不可欠	紙中コンサルティング 紙中英伸氏
7	都市内物流の効率化について ・都市内物流効率化対策の必要性 ・都市内物流効率化対策の分類 ・共同配送システムの事例	日通総合研究所 大島弘明氏

ロジスティクス産学連携コンソーシアムの紹介

8	ロジスティクスと環境ー環境問題とグリーン物流ー ・グリーン物流の必要性 ・環境法規制と物流への影響 ・物流における環境経営とグリーン物流への積極的取り組み	ロジスティクス革新パートナーズ 菅田勝氏
9	ロジスティクスと環境ーリコーロジスティクス環境活動事例ー ・環境経営コンセプトと活動プログラム ・SCM循環型ロジスティクスの構築 ・顧客満足による勝ち残り戦略	ロジスティクス革新パートナーズ 菅田勝氏
10	ロジスティクス分野における環境政策の動向 ・エネルギー(LPガス、LNGと冷熱利用) ・米代川流域圏におけるCO2削減・吸収 ・北九州における資源リサイクル	みずほ情報総研 秋山浩之氏
11	ロジスティクス企業に期待されていること ・企業活動の環境 ・企業活動と物流費 ・企業のSCM、より高度なSCM実現へ	日通情報システム 藤田光樹氏
12	キッコーマンの物流 ・キッコーマンの物流概要 ・キッコーマンの物流戦略の変遷 ・物流における環境対策	ビデオを使用
13	包装 ・包装と物流・流通 ・包装の基本 ・包装の実践	ティ・エス・ケイ 橋爪文彦氏
14	春学期まとめ	流通経済大学 矢野裕児
15	秋学期ガイダンス	流通経済大学 矢野裕児
16	日本企業におけるロジスティクスの現状 ーロジスティクスの考え方の重要性についてー ・SCMが求められる時代の変化 ・物流品質の向上とローコスト化 ・安全・安心を保証するロジスティクス	三菱食品 楠堂昌純氏
17	中小企業の生き残りをかけた取り組み ・十和運送の取組みと物流センター ・中小運送業者が抱える問題点と取り組み ・物流ABCについて	十和運送 結束洋氏
18	内航フェリーについてーフェリー輸送の特性と震災対応ー ・フェリーとは社会的役割とその歴史 ・東日本大震災でフェリー大活躍 ・現代社会のキーワードと5つの挑戦	オーシャントランス 辰巳順氏
19	沖縄における事業の取り組み ・沖縄の地域特性 ・沖縄からの発信	あんしん 雨宮路男氏
20	菓子物流のネットワーク価値の拡大 ・スナック菓子の物流の概要 ・物流サービスの価値と取組み ・ネットワークの拡大	スナックフードサービス 一山幸市氏
21	ニチレイロジグループ ロジネットの紹介 ・ニチレイグループ、ロジグループの紹介 ・主要センターの業務内容 ・ロジスティクスにおける付加価値	ロジスティクス・ネットワーク 立川哲二氏
22	Global Logistics Provider ・国内運輸業の歴史と日通のprofile ・客観的なロジスティクスの効率化 ・日本の経済的存在感の低下と今後の方向性	日本通運 渡邊潤氏
23	フード業界の企業間電子商取引プラットフォーム ・企業間電子商取引の役割 ・ニーズからの事業化 ・ASP商談、受発注、規格書システム	インフォマート 藤田尚武氏
24	味の素グループのロジスティクス ・味の素グループの特徴 ・味の素グループのロジスティクスへの取組 ・共同、協働という潮流の中で	ファイネット 恒吉正浩氏
25	SCMとこれからの物流企業に求められる課題 ・ハウス食品のSCMの特色 ・東日本大震災の対応について ・ハウス物流サービスのBCP	ハウス物流サービス 早川哲志氏
26	トラスコ中山のロジスティクス戦略 ・トラスコ中山の経営戦略 ・ロジスティクスと経営戦略の関係 ・クイックデリバリーの実現	トラスコ中山 中村哲也氏
27	卸売業から見た物流システムー環境負荷低減の視点からー ・企業に今求められるもの ・環境問題対応の現状 ・国内クレジット制度等今後の取り組み	国分 山田英夫氏
28	講義のまとめ	流通経済大学 矢野裕児

表2 「ロジスティクス実践講座—新松戸」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	ロジスティクス実践講座ガイダンス	流通経済大学 矢野裕児
2	物流概説 ・物流概念の誕生とロジスティクスへ ・ロジスティクスの高度化をうながした要因 ・ロジスティクスの定義	日本ロジスティクスシステム協会 石井徹郎氏
3	企業のロジスティクス戦略の変遷—1 ・物流前期 ・物流(物的流通) ・物流システム化の時代	日通総合研究所 廣瀬吉英氏
4	企業のロジスティクス戦略の変遷—2 ・ロジスティクス ・SCM ・グリーン物流(環境保護・改善)	日通総合研究所 廣瀬吉英氏
5	物流改善のポイントは—1 ・「アウトソーシング」「外注」「下請け」どう違う? ・「物流／ロジスティクスとは何か」を再考しよう!	紙中コンサルティング 紙中英伸氏
6	物流改善のポイントは—2 ・ITを活用すれば、物流が見えてくる、コスト低減方策が明確にわかる! ・在庫削減はロジスティクスの視点が不可欠	紙中コンサルティング 紙中英伸氏
7	ロジスティクス分野における環境政策の動向 ・エネルギー(LPガス、LNGと冷熱利用) ・米代川流域圏におけるCO2削減・吸収 ・北九州における資源リサイクル	みずほ情報総研 秋山浩之氏
8	都市内物流の効率化について ・都市内物流効率化対策の必要性 ・都市内物流効率化対策の分類 ・共同配送システムの事例	日通総合研究所 大島弘明氏
9	ロジスティクスと環境—環境問題とグリーン物流— ・グリーン物流の必要性 ・環境法規制と物流への影響 ・物流における環境経営とグリーン物流への積極的取り組み	ロジスティクス革新パートナーズ 菅田勝氏
10	ロジスティクスと環境—リコーロジスティクス環境活動事例— ・環境経営コンセプトと活動プログラム ・SCM循環型ロジスティクスの構築 ・顧客満足による勝ち残り戦略	ロジスティクス革新パートナーズ 菅田勝氏
11	ロジスティクス企業に期待されていること ・企業活動の環境 ・企業活動と物流費 ・企業のSCM、より高度なSCM実現へ	日通情報システム 藤田光樹氏
12	味の素グループのロジスティクス ・味の素グループの特徴 ・味の素グループのロジスティクスへの取組 ・共同、協働という潮流の中で	味の素物流 恒吉正浩氏
13	春学期まとめ	流通経済大学 矢野裕児
14	日本企業におけるロジスティクスの現状 —ロジスティクスの考え方の重要性について— ・SCMが求められる時代の変化 ・物流品質の向上とローコスト化 ・安全・安心を保证するロジスティクス	三菱食品 楠堂昌純氏
15	菓子物流のネットワーク価値の拡大 ・スナック菓子の物流の概要 ・物流サービスの価値と取組み ・ネットワークの拡大	スナックフードサービス 一山幸市氏
16	JR貨物の現状 ・JR貨物の最近の状況 ・最近の鉄道輸送システム ・環境問題等と鉄道輸送	日本貨物鉄道 神立哲男氏
17	ニチレイロジグループ ロジネットの紹介 ・ニチレイグループ、ロジグループの紹介 ・主要センターの業務内容 ・ロジスティクスにおける付加価値	ロジスティクス・ネットワーク 立川哲二氏
18	中小企業の生き残りをかけた取り組み ・十和運送の取組みと物流センター ・中小運送業者が抱える問題点と取り組み ・物流ABCについて	十和運送 結束洋氏
19	変化に対応する花王のSCM ・花王のロジスティクスの概要 ・花王のロジスティクス戦略の変遷 ・需要予測	花王 山口裕人氏

20	包装 ・包装と物流・流通 ・包装の基本 ・包装の実践	ティ・エス・ケイ 橋爪文彦氏
21	キッコーマンの物流 ・キッコーマンの物流概要 ・キッコーマンの物流戦略の変遷 ・物流における環境対策	ビデオを使用
22	コープのリサイクル物流 ・コープの環境負荷における物流の位置づけ ・エコセンター ・動脈と静脈物流の統合	コープネット事業連合 齊藤勉氏
23	トラスコ中山のロジスティクス戦略 ・トラスコ中山の経営戦略 ・ロジスティクスと経営戦略の関係 ・クイックデリバリーの実現	トラスコ中山 中村哲也氏
24	SCMとこれからの物流企業に求められる課題 ・ハウス食品のSCMの特色 ・東日本大震災の対応について ・ハウス物流サービスのBCP	ハウス物流サービス 早川哲志氏
25	卸売業から見た物流システムー環境負荷低減の視点からー ・企業に今求められるもの ・環境問題対応の現状 ・国内クレジット制度等今後の取り組み	国分 山田英夫氏
26	講義のまとめ	流通経済大学 矢野裕児

②「物流マネジメント実践講座」の 2012 年度の実施状況

「物流マネジメント実践講座」は、トラック、鉄道、3PL等の物流事業者及び有識者を招き、ロジスティクス管理に関する現状を学ぶことを目標としています。また、企業の物流戦略や多様な物流サービスの事例といった最新の動きについても学びます。半期科目であり、春学期は新松戸キャンパスで、秋学期は

龍ヶ崎キャンパスで講義をしていただきました。各回のテーマ、講師は表3、表4のとおりです。新松戸の受講生数は31人、うち4回生は6人、3回生は15人、2回生は10人でした。留学生が4分の1を占め8人でした。龍ヶ崎の受講生数は10人、うち4回生は1人、3回生は1人、2回生は8人でした。留学生は6人でした。

表3 「物流マネジメント実践講座ー春学期、新松戸」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	講座受講に必要な知識① ・本講座のねらい ・受講上の注意とポイント ・講義スケジュールと内容	流通経済大学 小野秀昭
2	講座受講に必要な知識② ・物流の基礎知識 ・物流事業の種類と内容 ・物流企業例	流通経済大学 小野秀昭
3	トラック運送産業の概要 ・営業用トラックの種類 ・特種貨物運送事業の概要 ・一般貨物運送事業の概要	運輸・物流研究室 中田愛子氏
4	ロジスティクス分野のIT活用事例 ・コンビニ事例にみる物流システムとITのしくみ ・発注から納品に至るまでの流れ ・物流・ITの背景にある考え方	野村総合研究所 足立研二氏
5	市場流通の動向と市場物流の実態 ・卸売市場の概要としくみ ・農産物、水産物、畜産物の流通チャネル ・卸売市場の物流課題と改善方向	コンサル アグリ 藤井憲雄氏

6	経営戦略の中での物流の位置づけ/役割 ・物流業における戦略会計 ・物流業の自己防衛策 ・物流KPI指標とは	金方堂運輸 松本有司氏
7	重量品輸送 (道なき山奥へ風力発電輸送、真夜中の新幹線輸送、海外の巨大プラント建設) ・日本通運の概要 ・重機建設とは、その定義と概要 ・映像で見る重量品輸送の実際	日本通運 福島茂明氏
8	宅配便の開発と成長過程 ・宅配便の定義と仕組み ・ヤマト運輸の取り組みの経緯 ・ヤマト運輸の成長戦略と課題	ヤマト運輸 中山貴宏氏
9	内航海運の現状 ・内航海運の定義と特徴 ・内航海運貨物の種類と船種構成 ・海運市場の法制度と市場動向	海上技術安全研究所 間島隆博氏
10	3PLの役割と実例 ・物流センター業務とは ・3PLの概念と機能について ・サプライチェーンと物流との関係	川崎陸送 樋口恵一氏
11	鉄道貨物輸送の仕組みとJR貨物の取り組み ・JR貨物の概要 ・鉄道輸送の特性と外部環境変化 ・モーダルシフト、国際物流への取り組み	日本貨物鉄道 木林徳彦氏
12	メーカーと物流子会社の関係・役割 ・物流子会社とは、企業事例の紹介 ・物流子会社の機能と組織の変遷 ・今後の展望	味の素物流 恒吉正浩
13	TVドキュメントに見る物流 ・「物流が消費を変える」日経スペシャル、ガイアの夜明けから を視聴して意見交換	流通経済大学 小野秀昭
14	講義のまとめ ・講義全体を通してQ&A ・レポート課題の提示	流通経済大学 小野秀昭

表4 「物流マネジメント実践講座―秋学期、龍ヶ崎」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	講座受講に必要な知識① ・本講座のねらい ・受講上の注意とポイント ・講義スケジュールと内容	流通経済大学 小野秀昭
2	講座受講に必要な知識② ・物流の基礎知識 ・物流事業の種類と内容 ・物流企業例	流通経済大学 小野秀昭
3	トラック運送産業の概要 ・営業用トラックの種類 ・特積み貨物運送事業の概要 ・一般貨物運送事業の概要	運輸・物流研究室 中田愛子氏
4	TVドキュメントに見る物流 ・「アマゾン物流」情報7daysニュースキャスター、「特殊な物を運ぶ運搬のプロ、 美術品・ピアノ」ヒットの泉〜ニッポンの夢デカラ を視聴して意見交換	流通経済大学 小野秀昭
5	重量品輸送 (道なき山奥へ風力発電輸送、真夜中の新幹線輸送、海外の巨大プラント建設) ・日本通運の概要 ・重機建設とは、その定義と概要 ・映像で見る重量品輸送の実際	日本通運 福島茂明氏
6	3PLの役割と実例 ・物流センター業務とは ・3PLの概念と機能について ・サプライチェーンと物流との関係	川崎陸送 樋口恵一氏
7	鉄道貨物輸送の仕組みとJR貨物の取り組み ・JR貨物の概要 ・鉄道輸送の特性と外部環境変化 ・モーダルシフト、国際物流への取り組み	日本貨物鉄道 木林徳彦氏
8	経営戦略の中での物流の位置づけ/役割 ・物流業における戦略会計 ・物流業の自己防衛策 ・物流KPI指標とは	金方堂運輸 松本有司氏

9	内航海運の現状 ・内航海運の定義と特徴 ・内航海運貨物の種類と船種構成 ・海運市場の法制度と市場動向	海上技術安全研究所 間島隆博氏
10	市場流通の動向と市場物流の実態 ・卸売市場の概要としくみ ・農産物、水産物、畜産物の流通チャネル ・卸売市場の物流課題と改善方向	コンサル アグリ 藤井憲雄氏
11	メーカーと物流子会社の関係・役割 ・物流子会社とは、企業事例の紹介 ・物流子会社の機能と組織の変遷 ・今後の展望	味の素物流 恒吉正浩
12	宅配便の開発と成長過程 ・宅配便の定義と仕組み ・ヤマト運輸の取り組みの経緯 ・ヤマト運輸の成長戦略と課題	ヤマト運輸 中山貴宏氏
13	TVDキュメントに見る物流 ・「物流が消費を変える」日経スペシャル、ガイアの夜明けから を視聴して意見交換	流通経済大学 小野秀昭
14	講義のまとめ ・講義全体を通してQ&A ・レポート課題の提示	流通経済大学 小野秀昭

③「国際物流実践講座」の2012年度の実施状況

「国際物流実践講座」は、国際物流に携わる経営者、実務経験者を講師として招聘し、国際物流における最新動向、事例により、国際物流の現状と課題を把握するとともに今後の展望を学修することを目標としています。春学期に2単位科目として開講しました。新

松戸キャンパスで講義をしていただきました。各回のテーマ、講師は表5のとおりです。受講生数は35人、うち4回生は7人、3回生は27人、2回生は1人でした。留学生が約半分を占め17人でした。他学部からは経済学科2人のみで、これ以外は流通情報学科の学生でした。

表5 「国際物流実践講座」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	流通経済大学 林克彦
2	電気機械製造業者の国際物流管理 ・国際物流の動向 ・ロジスティクス・マネジメントの現状と課題	東芝物流 手塚了嗣氏
3	電気機械製造業者の国際物流管理 ・海外展開事例 ・グローバル・ロジスティクスの事例	東芝物流 手塚了嗣氏
4	商社にとって「物流」とは ・企業概要 ・商社の物流・ロジスティクス・SCM、グローバル ・サプライチェーン・ロジスティク	アジア住友商事 河野達也氏
5	ロシアの最新物流事情 ・ロシアの地理、経済、貿易等 ・物流体制、港湾事情 ・シベリアランドブリッジ	環日本海経済研究所 辻久子氏
6	船会社の物流事業について ・企業概要 ・船会社にとっての物流・ロジスティクス・SCM ・国際物流事業の事例	オーシャントランス 辰巳順氏
7	航空会社の国際物流戦略(1) ・国際航空貨物輸送の動向 ・航空貨物輸送戦略	全日本空輸 片岡和民氏
8	航空会社の国際物流戦略(2) ・グローバルサプライチェーンにおける航空貨物輸送 ・国際物流戦略	全日本空輸 片岡和民氏
9	物流企業の中国現地法人の物流戦略 ・中国・東アジア・南アジアの潜在成長力と輸送インフラの現状 ・中国現地法人の現状とサービス展開 ・中国国内物流と戦略	日本通運 鳴島猛氏

10	航空フォワーダーの国際物流戦略 ・国際物流企業のグローバル戦略 ・高度化する国際物流ビジネス ・SCMソリューションの事例紹介	日本通運 森川智太氏
11	海上貨物フォワーダーの国際物流戦略 ・国際複合一貫輸送とは ・フォワーダーの役割 ・海外展開とロジスティクス・サービス	日本通運 高嶋健司氏
12	チャイナプラスワンASEAN ・注目の大メコン圏 ・各国物流事情 ・大メコン圏進出の成功要因	日通総合研究所 山口修氏
13	船会社の国際物流戦略(2) ・外航海運の動向 ・海上輸送の仕組み ・グローバル競争	日本郵船 吉田芳隆氏
14	講義のまとめ	流通経済大学 林克彦

④「情報システム実践講座」の 2012年度の実施状況

「情報システム実践講座」は、物流分野などに利用されている情報システムやその要素技術などに関わる実務者を講師として招き、具体的事例を通して最近の動向や課題などについて学びます。また、システムやネットワークの設計・開発の手法についても学びます。半期科目であり、春学期は新松戸キャンパス

にて、秋学期は龍ヶ崎キャンパスにて開講しました。各回のテーマ、講師は表6、表7のとおりです。新松戸の受講生数は47人、うち4回生は14人、3回生は22人、2回生は11人でした。留学生が4分の1強を占め13人でした。龍ヶ崎の受講生数は31人、うち4回生は1人、3回生は16人、2回生は14人でした。留学生は6人でした。

表6 「情報システム実践講座－春学期、新松戸」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	流通経済大学 増田悦夫
2	パレットにおけるRFIDの利用 ・パレットおよびレンタルパレット管理システム(パレットプールシステム) ・RFIDの概要 ・RFIDの導入事例	日本パレットレンタル 永井浩一氏
3	ロジスティクスを支える情報システム ・ロジスティクスの見える化と最適化 ・ロジスティクス・ネットワークの設計事例 ・ロジスティクスの今後の課題	日本ビジネスクリエイト 後藤一孝氏
4	外資系企業での経験「物流子会社からの脱皮」 ・サプライチェーンの概要 ・オンデマンドビジネスにおけるITの役割 ・IBMの戦略およびJBLの変遷	飛天ジャパン(元日本ビジネスロジスティクス) 傘義冬氏
5	物流の効率化とこれからの取り組み ・ビジネスモデルと物流システム事例 ・物流センター効率化の事例 ・変化への対応力	日通総合研究所 要藤洋文氏
6	電子自治体推進の概要について ・電子自治体の推進の状況 ・住民基本台帳ネットワークシステム、証明書等のコンビニ交付 ・自治体クラウドの推進	地方自治情報センター 井上賀博氏
7	画像処理応用による本人認証の世界と国際標準化とは ・本人認証とバイオメトリクス(生体)認証 ・指紋認証、DNA認証、静脈認証 ・バイオメトリクスと個人情報保護法	日立情報制御ソリューションズ 宇都宮康夫氏
8	ロジスティクスと情報システム ・サプライチェーンとロジスティクスと在庫 ・物流センターの事例 ・WMSとその役割	フレームワークス 秋葉淳一氏

ロジスティクス産学連携コンソーシアムの紹介

9	IT業界でのキャリアパスと就職研究 ・IT産業と業務の概要 ・IT企業の種類 ・キャリアの考え方と就職企業の選択	ヒューマネテック 松下雄二氏
10	サプライチェーン情報の活用とその効果 ・サプライチェーンを止めない仕組み ・サプライチェーンの情報活用事例 ・サプライチェーンの環境インパクトの可視化(CO2排出権シールなど)	日本ユニシス 澤上多恵子氏
11	現場力強化のための物流技術 ・自動認識技術とRFID ・RFID関連の国際標準規格 ・物流現場へのRFID導入事例	MTI 栗本繁氏
12	TMSの現状と今後の課題 ・TMSの概要と構築のポイント ・配送計画システムの実例(デモ) ・統合輸配送管理システムの概要と効果	光英システム 三輪宏氏
13	講義のまとめ	流通経済大学 増田悦夫

表7 「情報システム実践講座―秋学期、龍ヶ崎」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	流通経済大学 増田悦夫
2	サプライチェーン情報の活用とその効果 ・サプライチェーンを止めない仕組み ・サプライチェーンの情報活用事例 ・サプライチェーンの環境インパクトの可視化(CO2排出権シールなど)	日本ユニシス 澤上多恵子氏
3	外資系企業での経験「物流子会社からの脱皮」 ・サプライチェーンの概要 ・オンデマンドビジネスにおけるITの役割 ・IBMの戦略およびJBLの変遷	飛天ジャパン(元日本ビジネスロジスティクス) 傘義冬氏
4	ロジスティクスを支える情報システム ・ロジスティクスの見える化と最適化 ・ロジスティクス・ネットワークの設計事例 ・ロジスティクスの今後の課題	日本ビジネスクリエイト 後藤一孝氏
5	現場力強化のための物流技術 ・自動認識技術とRFID ・RFID関連の国際標準規格 ・物流現場へのRFID導入事例	MTI 栗本繁氏
6	TMSの現状と今後の課題 ・TMSの概要と構築のポイント ・配送計画システムの実例(デモ) ・統合輸配送管理システムの概要と効果	光英システム 三輪宏氏
7	パレットにおけるRFIDの利用 ・パレットおよびレンタルパレット管理システム(パレットプールシステム) ・RFIDの概要 ・RFIDの導入事例	日本パレットレンタル 永井浩一氏
8	ロジスティクスと情報システム ・サプライチェーンとロジスティクスと在庫 ・物流センターの事例 ・WMSとその役割	フレームワークス 秋葉淳一氏
9	Webシステム開発の現状と今後 ・ソフトウェア開発とその手法(ウォーターフォール、アジャイル) ・Web技術の概要 ・スマートフォンとアプリ開発	ヒューマネテック 田中裕樹氏
10	画像処理応用による本人認証の世界と国際標準化とは ・本人認証とバイOMETRICS(生体)認証 ・指紋認証、DNA認証、静脈認証 ・バイOMETRICSと個人情報保護法	フィット・デザイン・システム 宇都宮康夫氏
11	電子自治体推進の概要について ・電子自治体の推進の状況 ・住民基本台帳ネットワークシステム、証明書等のコンビニ交付 ・自治体クラウドの推進	地方自治情報センター 井上賀博氏
12	物流の効率化とこれからの取り組み ・ビジネスモデルと物流システム事例 ・物流センター効率化の事例 ・変化への対応力	日通総合研究所 要藤洋文氏
13	講義のまとめ	流通経済大学 増田悦夫

⑤「ロジスティクス企業訪問講座」の 2012年度の実施状況

企業がロジスティクスをどのように考え、システムを構築しているかについて、企業訪問を通じて考察します。実際の現場を訪問することによって、学生が実感として理解することを目標としています。2012年度は11箇所を訪問し、現場でロジスティクス担当者が概説し、物流現場を実際に見学しました。半

期科目で、企業訪問を実施することから、2012年度は、夏季休暇中の9月に集中講義で、開講しました。各回のテーマ、訪問先は表8のとおりです。新松戸の受講生数は16人、うち4回生は1人、2回生は15人でした。留学生はいませんでした。龍ヶ崎の受講生数は3人、うち3回生は1人、2回生は2人でした。留学生は1人でした。

表8 「ロジスティクス企業訪問講座」の2012年度の実施結果

回	テーマ	訪問先、講師
1	企業訪問講座ガイダンス-1 ・企業訪問講座の全体像 ・訪問場所のロジスティクスの概要	流通経済大学 矢野裕児、洪京和
2	企業訪問講座ガイダンス-2 ・訪問スケジュール ・訪問時の注意事項	流通経済大学 矢野裕児、洪京和
3	自動車メーカーの工場見学	日産自動車栃木工場
4	菓子メーカーの物流センター見学	スナックフードサービス
5	メーカーから物流業務を委託された物流センターの見学	十和運送
6	卸売業の物流センターの見学	トラスコ中山
7	建設現場向け物流センターの見学と改善事例	カネシン
8	小売店(ドン・キホーテ)向け物流センターの見学	センコー
9	物流改善事例の説明、物流機器の見学	トヨタL&Fカスタマーズセンター
10	東京ソラマチのバックヤードの見学	佐川急便
11	鉄道貨物駅の見学	東京貨物ターミナル駅
12	最新の物流システム、物流機器の見学	国際物流総合展
13	江戸時代から昭和までの物流の歴史を紹介	物流博物館

⑥「ロジスティクス改善演習」の 2012年度の実施状況

「ロジスティクス改善演習」では、物流部門の現場で発生する課題を題材として取り上げ、現状の問題点の整理を行い、各種手法を用いて改善案を検討します。この演習を受講することにより、物流システムに関する理解を深め、分析手法を習得するとともに、分析

能力や改善案を提案できる能力を習得することを目標としています。半期科目として、竜ヶ崎キャンパスで実施し、また物流の現場を理解するために物流企業も見学します。各回のテーマ・内容は表9のとおりです。受講生数は17人、うち4回生は1人、3回生は8人、2回生は8人でした。留学生が3人でした。

表9 「ロジスティクス改善演習」の2012年度の実施結果

回	テーマ	内容
1	ロジスティクス改善演習ガイダンス	講義の内容、目的、評価方法を理解し、日程および訪問場所を確認する。
2	物流システム見学1	トヨタL&Fを訪問し、最新の物流システムを見学し、物流改善に関する講義を受講する。
3	物流システム見学2	トヨタL&Fを訪問し、最新の物流システムを見学し、物流改善に関する講義を受講する。
4	物流施設見学	トラスコ中山・プラネット東関東を訪問し、物流設備や保管在庫などを見学する。
5	物流シミュレータRALC・入門1	物流シミュレータRALCの基本操作、およびモデルの基本的な作成方法を習得する。
6	物流シミュレータRALC・入門2	コンベアを含む仕分け型モデルを作成し、シミュレーションを体験する。
7	RALCによる自動倉庫設備設計1	自動倉庫をもつ物流施設を想定した在庫型モデルを作成し、シミュレーションを実施する。
8	RALCによる自動倉庫設備設計2	作成した自動倉庫をもつ在庫型モデルの問題点を分析し、改善案を検討し、評価する。
9	ミニチュアモデルによる倉庫設備1	方眼紙を用いて、倉庫およびラックのミニチュアモデルを作成する。
10	ミニチュアモデルによる倉庫設備2	ミニチュアモデルを用いたシミュレーションにより、物流施設内のラック配置を設計し、総移動距離などにより設計案を評価する。
11	RALCによるラック配置設計1	ミニチュアモデルにより作成したラック配置案に対応するRALCシミュレーションモデルを作成し、シミュレーションを行い、設計案を評価する。
12	RALCによるラック配置設計2	RALC上で、ラック配置を改善したモデルを作成し、シミュレーションを行い、改善案を評価する。
13	レポート作成1	ミニチュアモデルシミュレーションとRALCシミュレーションについて、レポートを作成する。
14	レポート作成2	ミニチュアモデルシミュレーションとRALCシミュレーションについて、レポートを作成する。

⑦「日本通運寄付講座」の2012年度の実施状況

「日本通運寄付講座」は、「21世紀の物流と今後の展望」をテーマとして、日本通運および関連会社の役員を中心に招き、各事業部、関連会社の業務内容、さらに企業で働くこととは、企業が求める人材など広く学びます。通年科目であり、新松戸キャンパスで講義をしていただき、龍ヶ崎キャンパスは遠隔授業によって開講しました。各回のテーマ、

講師は表10のとおりです。なお、龍ヶ崎キャンパスの春学期の内容は、新松戸キャンパスでは秋学期に、龍ヶ崎キャンパスの秋学期の内容は、新松戸キャンパスでは春学期に実施しています。龍ヶ崎の受講生数は23人、うち4回生は10人、3回生は13人でした。留学生は3人でした。新松戸の受講生数は38人、うち4回生は18人、3回生は20人でした。留学生が7人でした。

表10 「日本通運寄付講座」の2012年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	流通経済大学 吉村章
2	企業が求める人材とは ・学生就職意識と社員就業意識 ・企業が求める人材像(人格力)	総務・労働部 秋田進氏
3	物流とコンプライアンス ・作業管理とコンプライアンスの徹底 ・事業の適正運営と人材育成	業務部 佐久間文彦氏
4	未来の大国 メキシコの物流について ・JIFFAメキシコ物流事情調査報告 ・米・メキシコ間クロスボーダー輸送実態	日通総合研究所 田阪幹雄氏
5	低炭素社会における物流の見える化 ・グリーンイノベーション ・カーボンフットプリント ・CO2排出量の算定(計算問題)	日通総合研究所 麦田耕治氏

ロジスティクス産学連携コンソーシアムの紹介

6	トラック事業(特別積合せ事業)の概要について ・貨物運送事業と物流二法概要 ・特別積合せ事業の現状と課題	日通トランスポート 川目俊夫氏
7	ロジスティクスサービスにおける商流機能 ・ロジスティクスの意義・目的～SCM ・ロジスティクスにおける商流機能 ・部品調達のアウトソーシング事例	日通商事 磯野聡氏
8	内航海運～国内物流の大動脈として～ ・内航海運の役割と現状(VTR) ・高船齢・零細船主・船員不足等	日本海運 佐藤裕一氏
9	ロジスティクスファイナンスについて ・商流仲介型のロジスティクスサービス ・VMI実現に向けた課題解決 ・ロジスティクスファイナンス事例	日通キャピタル 山崎広行氏
10	人材ビジネスの歴史と展望 ・人材派遣・職業紹介・業務請負 ・派遣法改正と今後の課題	キャリアロード 星野泰秀氏
11	小売業界の物流と今後の展開 ・国内通販業界のSCM事例 ・海外小売市場と日系企業事例	営業第三部 龍ヶ崎 大類道雄氏 新松戸 久保田智氏
12	グローバル企業への国内外ロジスティクスソリューションの提供 ・日系企業を取り巻く外部環境 ・顧客SCMの問題解決型提案	グローバルロジスティクスソリューション部 龍ヶ崎 常務理事 小川正志氏 新松戸 丸山義弘氏
13	春学期のまとめ ・質疑への回答とレポート提出	流通経済大学 吉村章
14	秋学期ガイダンス ・春学期の振り返りと質疑応答 ・秋学期の講義概要と講師紹介	流通経済大学 吉村章
15	競争が激化する引越市場 ・引越市場の推移と動向・課題 ・生活環境と顧客ニーズの変化	引越営業部 龍ヶ崎 萩原進氏 新松戸 富田有一氏
16	グローバル経済化がもたらすロジスティクストレンドの変化 ・外部環境とロジスティクストレンド ・物流からロジスティクス・SCM・3PL ・国内貨物の現状、海外シフト加速	執行役員 営業企画部 安藤伸樹氏
17	国際航空貨物の事業戦略 ・航空フォワーダーの役割とSCM ・フォワーダーからロジスティクスプロバイダ	航空事業部 川嶋英信氏
18	海上貨物輸送の事業戦略 ・国際複合一貫輸送とフォワーダー ・SSE上海スーパーエクスプレス(VTR)	海運事業部 龍ヶ崎 横山豊茂氏 新松戸 織田博文氏
19	美術品輸送について ・国宝の仏像輸送(VTR) ・美術品梱包資機材の実物	美術品事業部 後藤泰弘氏
20	重量物輸送と国内外プラント建設について ・東日本大震災の対応重機輸送 ・サハリンプロジェクトの実際(VTR)	重機建設事業部 高木英夫氏
21	警備輸送事業～安全と安心の限りなき追求～ ・警備業の種類と警備員の任務 ・現金輸送の実際(VTR)	警備輸送事業部 荒内隆氏
22	日通のグローバル市場における事業展開 ・海外事業戦略推進→世界日通 ・世界5極体制の具体的事例	海外企画部 宿谷肇氏
23	物流と環境問題～持続可能社会を目指す物流業 ・物流業に関わる環境問題 ・日通の環境憲章&CSR報告書	環境・社会貢献部 龍ヶ崎 矢部泰弘氏 新松戸 和田修氏
24	物流におけるIT(情報システム)の活用 ・日通のITロジスティクス戦略概要 ・ハンドヘルド・ターミナルデモ実演	常務理事 IT推進部 野口雄志氏
25	旅行産業の役割と未来 ・インバウンド&アウトバウンドのマーケット ・生き甲斐産業としての旅行業	旅行事業部 新松戸 大竹信男氏
26	秋学期のまとめ ・質疑への回答とレポート提出	流通経済大学 吉村章

⑧「全国通運連盟寄付講座」の
2012年度の実施状況

「全国通運連盟寄付講座」は、鉄道貨物輸送をテーマとして、物流博物館、J R 貨物、鉄道利用運送事業者、荷主企業の実務者を招き、鉄道貨物輸送の現状、課題、今後の展望を広く学びます。半期科目であり、新松戸キャンパスで講義をしていただきました。各回のテーマ、講師は表 11 のとおりです。下記の

講義以外に夏休み期間中に、事前講習として東京貨物ターミナル駅の見学を実施しました。

受講生数は 49 人、うち 4 回生は 22 人、3 回生は 27 人でした。留学生の数は 14 人でした。他学部からは経済学部 9 人、社会学部 4 人、法学部 1 人が受講し、流通情報学部からは 35 人でした。

表 11 「全国通運連盟寄付講座」の 2012 年度の実施結果

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	流通経済大学 林克彦
2	物流と通運の歴史 ・通運とは ・江戸時代、明治時代、大正時代以降、戦後の物流と通運	物流博物館 玉井幹司氏
3	地球環境問題とモーダルシフト ・地球温暖化問題とは ・地球温暖化対策の動向と対策 ・モーダルシフトの推進に向けて	三菱総合研究所 永村知之氏
4	JR 貨物に関する知識(1) 鉄道貨物輸送の現状と今後 ・国鉄改革と JR 貨物の発足 ・鉄道貨物輸送の現状 ・静脈物流、SEA&RAIL 等への取り組み ・社会に貢献する鉄道貨物輸送	JR 貨物営業部 姫野健士氏
5	JR 貨物に関する知識(2) 貨物列車の輸送のしくみ ・貨物輸送計画 ・貨物列車の運行管理 ・安全・安定輸送の確保 ・貨物輸送とインフラ整備	JR 貨物運輸部 安田晴彦氏
6	鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトの実際(1) 日本通運における鉄道貨物輸送の現状 ・会社概要 ・鉄道輸送、鉄道コンテナ、集配車両 ・国際複合一貫輸送 ・モーダルシフトの事例	日本通運 杵淵満氏
7	鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトの実際(2) 合通における鉄道貨物輸送の現状 ・会社概要 ・鉄道コンテナ、鉄道輸送 ・モーダルシフトの実際	合通 八巻達也氏
8	国際物流の動向と鉄道利用運送事業者の役割 ・経済社会のグローバル化 ・中国・韓国との国際複合一貫輸送サービス(SEA&RAIL) ・輸出入国際コンテナの国内転送	流通経済大学 林克彦
9	企業物流の中の鉄道貨物輸送(1) 鉄道コンテナ輸送と環境経営 ・企業概要と物流本部の紹介 ・物流本部の環境取り組み ・鉄道コンテナ輸送の活用	月島食品工業 平間茂氏
10	企業物流の中の鉄道貨物輸送(2) JUKI のモーダルシフトの取組 ・会社概要と物流の全体像 ・物流費削減の手法 ・モーダルシフトと共同物流の推進	JUKI 荻原克郎氏
11	鉄道コンテナ輸送の今後 ・全国通運連盟と鉄道利用運送事業 ・鉄道コンテナ輸送の課題と今後 ・荷主の物流システムへの対応と供給量拡大	全国通運連盟 西濱公樹氏
12	日本経済と鉄道貨物輸送ネットワークのあり方について	流通経済大学 林克彦